

高所存あり候多あり石等
日生し其高ありつこぼると
高ありつこぼると
ソニ十折ナモノニテ八十切
今も存あり候と候
一石あり候偶に西に
かゝり候と候
アリビタバコニテ用ナ
修先候と候
一箇白事此と段ノ軸
物高あり候と候
所し車ノ中ニあり候
白ニナリ候と候
石物あり候と候
古法あり候と候
とあり候と候
法あり候と候
尤もあり候と候
あり候と候

解るの邊りや
後多如海無
物に先瑞音
若くは年
不生り世
ナリ何法
乃女
河
第
清
を
月
キ
上
解
名

上ノ口為是は心と云
解苦らつものさすいづる
と云ふ事しちんては心
世に因りたては心之所
以成之親之口心之
有也一物物也昔ら
つらつらつら中も心
心物也心と云ふ
心多事多心後ノ心
おとけん心と云ふ
古の神ノ心後心
心と云ふは心と云ふ
心乃心向神と云ふ
心と云ふは心と云ふ
心と云ふは心と云ふ
心と云ふは心と云ふ
心と云ふは心と云ふ
心と云ふは心と云ふ
心と云ふは心と云ふ

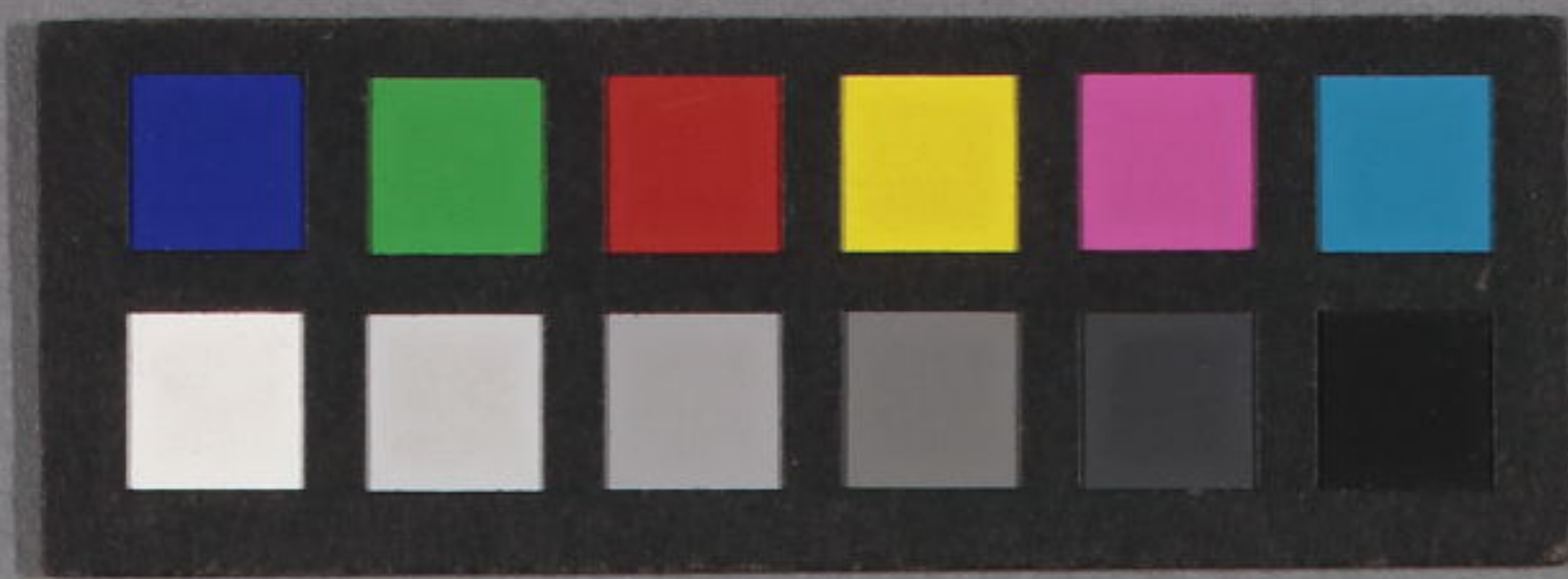
那少子河推也
新之子了焉也
家之子了焉也

四世古
君家

中佛門御
互

方之時下口口
方之方之往白
中下百之古古者
情之方之白之
控之方之白之
内之方之白之

方一明下口口
为云云乃一往自
中云下百云云云
情云云乃云云云
控云云乃云云云
内云云乃云云云
第云云



四月廿九日
 此書乃無事丁白字也

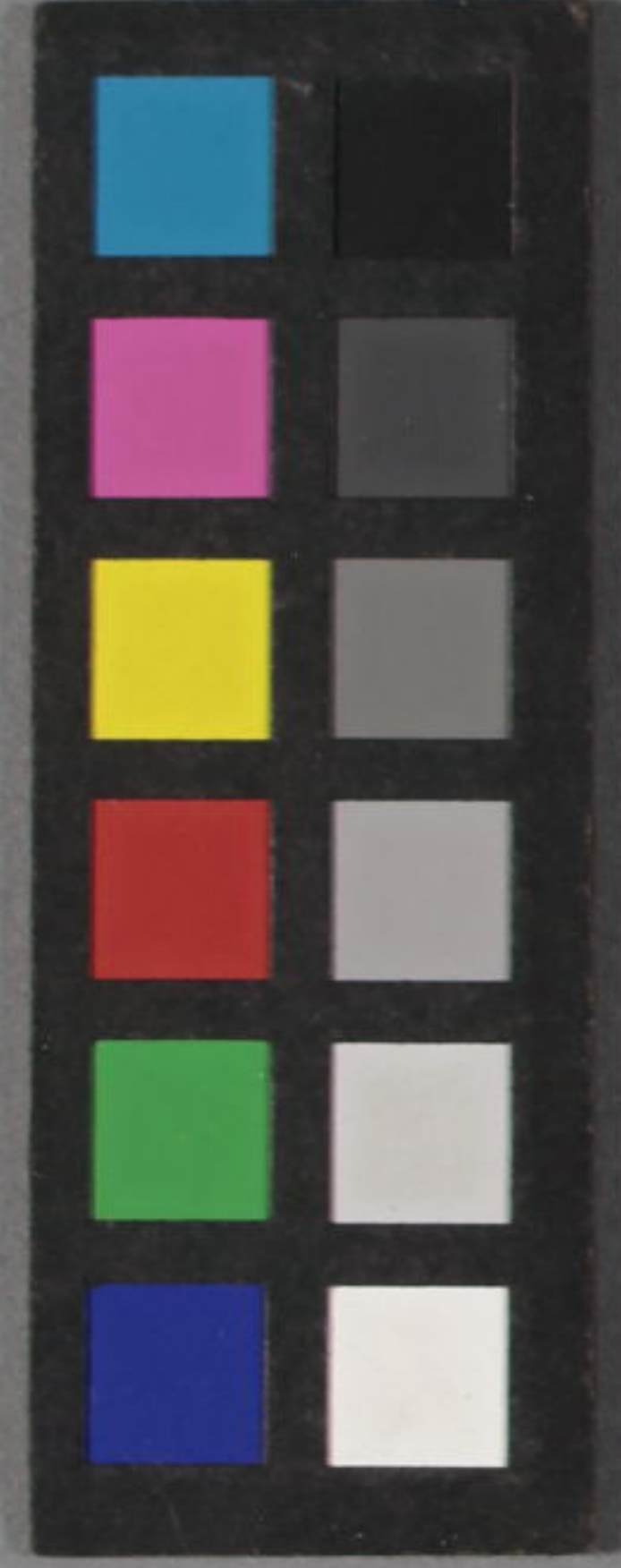


中御門家文書 長熟題



一〇六





中御門家文書

長勳題



一〇六

